若葉すや鍛冶の音も澄む沼哥　ヤヨキ

水雞

安堵寢の子が寢崩れやなく水雞　青淪
水雞鳴くや筆耕明けを光る灯に　仝
水雞鳴くや酷に煮れば脂も消ゆる魚　水郷
水雞なくや井溢るゝを旅硯滌ぎもす　仝
水雞なくや田仕事半ば殘しある　江村
訴の田を鳴き分つ水難かな　瘦脚
荷役濟んで船に総寢や鳴く水雞　嘘割
沼供養夜半鳴く水雞神告げか　唐辛紅
沼の水雞我飼ふと云はん誇大哉　八洲郎

青嵐

青嵐日歸り旅の歸途一歩　滴人
布石負けも奇手成功や青嵐　仝
背渡りを牙峰數へつ青嵐　水郷
青嵐湖海を分つ一青螺　仝
海に暮れて山の灯戀し青嵐　唐辛紅
青嵐湖何祭る神樂笛　仝
青嵐木賃枕も舟反りに　瘦脚
あさり散らして日に醉ふ鳥や青嵐　仝
水條案内待つを汐勢や青嵐　嘘割
石に刻る登山案内や青嵐　此君子

羅

羅や灯かざせは水に漣漪あり　水郷
羅や纓結びようも蔦たけて　岳童

春雜吟

水郷

かほと落ち湛ふ椿を湖に出づ
砂俵に洪水思ふ驛の椿哉
大手松に藤咲けり佳節待つ頃を
藤に二度來て異なそしり聞かんとは
鞍上に藤折りつ飛橋返り見て
藤咲くやふと願ほどき忘れ居て

木の芽すや峡棲む魚に香も添ひて　碧梧桐

大願時の淨起居や木の芽摘みもして　八重櫻

木の芽薫る水や銀河を宿し澄む　魚波

木の芽すや木塲燒印に張る權威　奉山

島牧の囀りを風變りせん　一碧樓

論陣の筆勳を君に囀るか　俯仰

旅人心せよ峠笹山虻に　師竹

俚謠異調も湯女訛りかや虻の聲　櫻魂子

籠借れば汐干草鞋も貸す宿に　藍雨

爐に妻が名殘寢や花小屏風も　城東

爐塞や艶話も古りぬ妻言ても

犬洗ふを云合へり稚兒の日永さを

護符に温む水掻くも農祈禱哉

山祇玉を滌がば温む水ならん

四五艘を寄せ打つ網や風光る

急湍の蹴返し花や夏近し

夏近く矢屏風に好み矢換へして

移民掟水にもあるや夏隣

謝恩文謝罪文朧ろ住む人へ

わしが城さ川船唄も麗かに

破風寒う鮮苦色は雨磨ぎに

何處より玉打つや銀河動きけり

長崎に來し大望や天の川

蓮沼を返り見つゝ廣野がかり哉

火祭の果ての投火や時鳥

入る月か出し月か見ゆ閑古鳥

峯の雪見まさるれぞ氣鳥渡る

雁なくや端山の柑子照る月に

女連れ雁金旅の小春哉